

競技・審判上の注意

1. 本大会は、平成29年度（公財）日本バドミントン協会競技規則および同大会運営規程並びに同公認審判員規程により行います。
2. 審判は、すべて大会本部にて行います。
なお、サービスジャッジは決勝トーナメント戦準決勝より配置します。その他のマッチ（試合）においては、原則として配置しません。
3. 予選リーグはブロック戦とし、各ブロック1位のチームが決勝トーナメント戦に進出します。
予選リーグにおける順位の確定は以下の方法で行います。
 - (1) 勝敗による
 - (2) マッチ率による
 - (3) 上記(1)(2)が同率の場合、得ゲーム率
 - (4) 上記(1)～(3)が同率の場合、得ポイント率
 - (5) 上記(1)～(4)が同率の場合、直接対決の勝利チーム※ 棄権の場合、記録は残しますが、上記(2)～(4)の計算においてはすべて21対0の2対0で敗戦したものと扱います。
4. 予選リーグの対戦は勝敗に関わらず、すべてのマッチ（試合）を行います。原則2面並行で行いますが、進行が遅れた場合は3面に開く場合があります。
なお、1対戦のマッチ（試合）順序は、男子単→女子単→男子複→女子複→混合複としますが、混合複に重複する選手がいる場合、順序を入れ替える場合があります。
コート挨拶時に両監督に主審より試合順の説明をします。
※具体例 Aチーム：同一選手が混合複に出場し、男子複に出場する
Bチーム：同一選手が混合複に出場し、女子単に出場する 場合
< ①女子単→②男子複→③男子単→④女子複→⑤混合複 >
5. 決勝トーナメントは3マッチ先取とし、1対戦のマッチ（試合）順序は、以下の通りとします。
< 男子単→女子単→男子複→女子複→混合複 >
※ コートを並行して行いますので、マッチ（試合）の順序に関係なく、勝敗決定後打ち切りとします。
6. 選手および監督・コーチは、試合開始30分前には競技会場に到着してください。
7. 試合開始予定時刻の30分前にオーダー交換の放送をします。競技の進行を円滑に進めるため、「オーダー交換」「試合開始のコール」等の放送に十分注意してください。ただし、該当チームがマッチ（試合）を行っている場合は対戦終了後、直ちにオーダー交換を行います。提出が遅れた場合、「棄権」とみなす場合もありますのでご注意ください。
8. オーダー用紙は、オーダー交換所に提出してください。対戦チームが揃ったらオーダー交換を行いますので、指定のあった時刻厳守でお願いします。
ならでんアリーナ・田原本中央体育館とも、24日、25日の1巡目オーダー提出時刻は、【8：30】です。
2巡目以降のオーダー交換については、放送で案内します。
9. 選手および監督・コーチは、試合開始のコール後、直ちにチームでまとまって指定コートに集合してください。コール後5分を経過しても集合が確認できない場合は、「棄権」とみなしますのでご注意ください。
10. マッチ（試合）の進行状況にあわせて、試合開始時刻、使用コートをコールしますので、放送には十分ご注意ください。
11. 各コートにベンチとコーチング席2席を設置します。コーチは公認審判員規程第3条第5項第6号を厳守し、マッチ（試合）にふさわしい服装で臨んでください。

対戦中にベンチ・コーチング席に入ることが認められるのは、登録した監督・コーチ・選手のみとします。

12. マッチ（試合）前の公式練習では、主審の指示により全ての当該マッチ（試合）の前に両チームとも同時に2分間行います。ただし、シングルスの場合は、自チーム選手と練習をしてください。練習球は、各自で準備してください。
13. マッチ（試合）中のけがや病気に対しては、主審が判断します。主審が必要に応じて競技役員長（レフェリー）を呼んだ時は、競技役員長（レフェリー）の判断に従ってください。
14. シャトルの選択は認めません。また、シャトルの交換については主審が決定しますので、指示に従ってください。
15. マッチ（試合）中の水分補給、汗拭き、ラケットの交換、靴ひもの締め直し等、プレーを中断する場合は、必ず主審の許可を得てください。なお、氷嚢の使用は、インターバル中のみ認めます。
 - (1) ドリンク容器は、倒れてもこぼれない蓋付きボトルを使用し、主審横の指定した入れ物に入れてください。
 - (2) 氷嚢は、ベンチまたはコーチング席で小型の保冷バッグ等に入れ、保管してください。
16. 競技規則第16条7項の規程により、以下のような行為は警告、フォルトまたは失格となりますので注意してください。
 - (1) プレーを故意に遅らせたり、中断したりすること。
 - (2) 故意にシャトルに手を加えて破損したりすること。
 - (3) 見苦しい服装でのプレー、審判員や観客に対する横柄な態度など下品で無礼な態度や言動。
 - (4) コート施設を叩いたり、耳障りなかけ声や叫び声を発するなど、競技規則を超えた不品行または不快な行動。
17. 審判の判定に「抗議」や「異議」を唱えることは一切認めません。もし判定に対して疑問のある場合には、次のサービスが行われる前に「質問」をすることができます。ここで質問のできる者とは、当該選手と監督に限ります。マッチ（試合）中、インプレーでない時のアドバイスはコーチング席に座って行い、マッチ（試合）中はコートのそばに立ってはいけません。また、監督・コーチが他のコートに移動したいときは、必ずインプレーでない時に行ってください。
18. 競技フロア内での携帯電話等の使用は、一切認めません。携帯電話等は電源を切るか、マナーモードにしてください。マッチ（試合）中のコートまたはコート周辺でのプレーヤーの携帯電話が鳴った時は、競技規則第16条第6項(4)違反とみなします。
19. マッチ（試合）中にモバイル機器を使用したアドバイス・コーチングは禁止します。
20. マッチ（試合）中の服装は、白または（公財）日本バドミントン協会審査合格品とし、上衣の背面中央に必ず都道府県名を明示してください。
21. 選手はマッチ（試合）開始前および終了後に、主審およびサービスジャッジとの握手を励行してください。
22. 上記の他、監督会議において確認した内容に従ってください。